



笹木 圭子

専門分野：
環境材料学、ジオミメティクス

女性教員が参入していくにはもっと女性の総数が増える必要がある。女性に限らずとも、ダイバーシティを拡げる努力が大学の変革にもつながるのではないかと。博士課程から研究職というフェーズでは、博士号を取得したら研究職か教育職につくことが多い。女性の場合は結婚適齢期にさしかかるので、研究職か教育職かというよりも勤務地・勤務条件が重要な要素と考える人が多いが、男性がそれを気にすることは少ない。性別を問わず、大学から社会に出ようとするステージでは、何がやりたいか、自分の人生をかけて何を職業とするのか、それを真剣に自分に問うことが大事。

似ていて、知られていない真実を明らかにすること、それは独りよがりではなく、人々に受け入れられ、感動を与えるものでなければならない。真理の探究に邁進する強い好奇心と純粋さが、研究者として成長するエネルギーのもとになる。「デザインの発想に最も大事な要素は、作者の趣味や趣向ではなく、高い常識である」という。デザインのような独創性を極度に求める世界であっても常識を軽視した作品は成立しないことを物語っている。高い常識を高い基礎力と読み替えるとこれを研究に投影できる。若い人たちへのもうひとつのメッセージとして、「基礎分野において、理解しにくいとみえることから目を背けない」ことを強調したい。

ジオミメティクスから環境材料へ

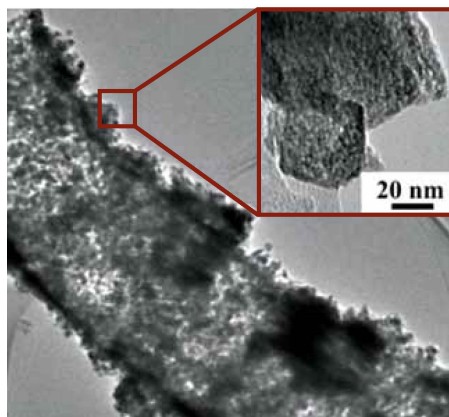
私の研究は、環境に有害元素や希少元素を濃集する材料を、供給性の高い鉱物、人工鉱物、生体鉱物を使って作る。これを総称して「ジオミメティクス」と定義。材料開発とともに、それを使ったプロセス開発の研究も含む。製鉄プロセスからのスラグや、火力発電所からの飛灰は、産業廃棄物とされてきたが、今は有用な機能が認知され、副産物としてさらに付加価値を高めた用途が開発されつつある。

ダイバーシティが拓く次の時代

大学運営、教育、学外活動とバランスをとりながら研究を行っているが、科研の獲得では、とくに女性だから不利というの、有利というものもない。むしろ大学運営では重要なことが、公の場ではなく一部の男性社会の阿吽の呼吸で決まっていることが見受けられるように思う。

好奇心と素直さ、そして高い基礎力

研究者として伸びるためには、強い好奇心と素直さが必要だと思う。研究活動は芸術に



真菌の菌糸表面に形成した高選択性リチウムイオン吸着体

略歴

北海道大学 理学部(化学科)卒業。カナダ ウォータールー大学地球科学科客員准教授を経て2004年に九州大学大学院工学研究院地球資源システム工学部門 助教授、准教授を経て2010年から教授。日本学術会議連携会員。

以上、インタビューの一部を紹介しました。研究の詳細や海外経験のお話など、全体については男女共同参画推進室のホームページからご覧いただけます。